

市制60周年を迎えて

今年は市制60周年、宝塚歌劇100周年、手塚治虫記念館開館20周年というトリプル周年です。周年事業の取り組みや宝塚市大使からのメッセージをシリーズで掲載していきます。



宝塚市大使
木村 佳友さんとエルモ

身体障害者補助犬法の成立に尽力し、介助犬との生活を通じて、講演や行政・マスコミへの働きかけなど介助犬の普及啓発に取り組む、宝塚市大使の木村佳友さんにお話を伺いました。

—宝塚市には長くお住まいですか。
中学生のときに、両親の引っ越しを機会に宝塚市へやってきました。交通事故で車いすの生活になるまでは、陸上や野球、スキーなど、スポーツをするのが日課でした。

—お部屋に野球のサインボールがありますね。
金本選手のもんです。大の阪神タイガースファンで、昔は甲子園球場によく観戦に行きました。最近、阪神競馬場に妻とよく出掛けます。馬場以外に公園もあり、くつろぎの時間を過ごしています。

—介助犬と暮らす宝塚のまちはいかがでしょうか。
私にとって初代の介助犬であるシンシアが宝塚市に来て丸20年になります。宝塚市ではすべての人にやさしい

まちを目指して、「シンシアのまち宝塚」を宣言しているように、介助犬を快く受け入れてくれるお店が多いです。でも、まだ介助犬の同伴拒否などで辛い思いをするときもありますので、さらに周知を進めるため、私も活動を続けています。シンシアの後を引き継いだエルモが4月に引退し、3代目がやってくるのを待っているところです。

—市民も行政も一緒に寄り添い、手を取り合って、介助犬の啓発をしていく必要がありますね。
そうですね。でも、宝塚のまちは本当にやさしい人が多いです。阪神・淡路大震災をきっかけとして生まれた絆やボランティア精神は数えきれません。介助犬の普及啓発にも、多くの人がやさしい気持ちで応援してくれています。

—来年で阪神・淡路大震災から20年が経ちますが、将来の宝塚市のあるべき姿をどう考えますか。
震災を知らない世代の子どもたちにも、教訓や経験を私たち大人が語り継いでいかないとけませんね。宝塚歌劇や手塚治虫記念館をはじめ魅力的な観光資源に恵まれたまちですが、ぜひ「シンシアのまち宝塚」として市民みんながやさしい気持ちを持って、宝塚市を訪れた人に「宝塚市に住みたい」と思ってもらえるように、私も取り組んでいきたいと思っています。

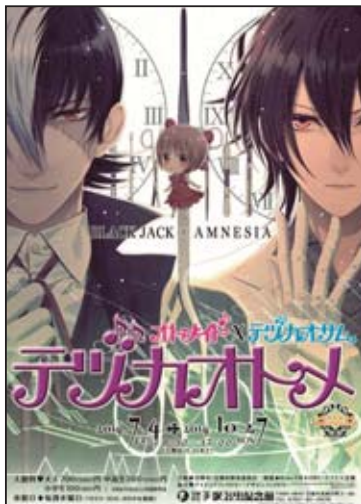
手塚治虫記念館 開館20周年記念

オトメイト×テヅカオサム「テヅカオトメ展」

7月4日(金)～10月27日(月)

手塚治虫記念館 (☎81・2970)

宝塚はヅカ乙女のまち。かつて手塚治虫も宝塚歌劇の影響を受けて本格的な少女向けストーリー漫画「リボンの騎士」を描きました。そして時代は流れ、「乙女ゲーム」というゲームジャンルが誕生します。魅力的なキャラクターたちとの展開に自分の姿を投影するジャンルは、今や一大ジャンルとして確立されています。今回は、その一大ジャンルの草分け「オトメイト」と手塚作品がコラボレーションします。



「オトメイト」とは、アイディアファクトリー株式会社の女性向けゲームブランドです。女性主人公が登場キャラクターたちと恋愛をしていく様を描いた「女性向けの恋愛アドベンチャー」いわゆる「乙女ゲーム」を数多く世に放ち、ゲームに留まることなく、アニメーション、舞台など、さまざまなジャンルで女性(乙女)たちを魅了し続けています。

似顔絵コーナー

夏休み企画

来館者でご希望の人に似顔絵を描きます。

日時 7月20日(日) 10時～16時

先着順(整理券配布の場合あり)

費用 1人300円、2人500円、3人700円

(別に入館料が必要)

※似顔絵にかかる時間はお一人20～30分程度です